

患者・利用者の在宅生活の基礎を支援する
「住宅改修の重要性」

(株)バリオン 代表取締役 金沢善智

自己紹介

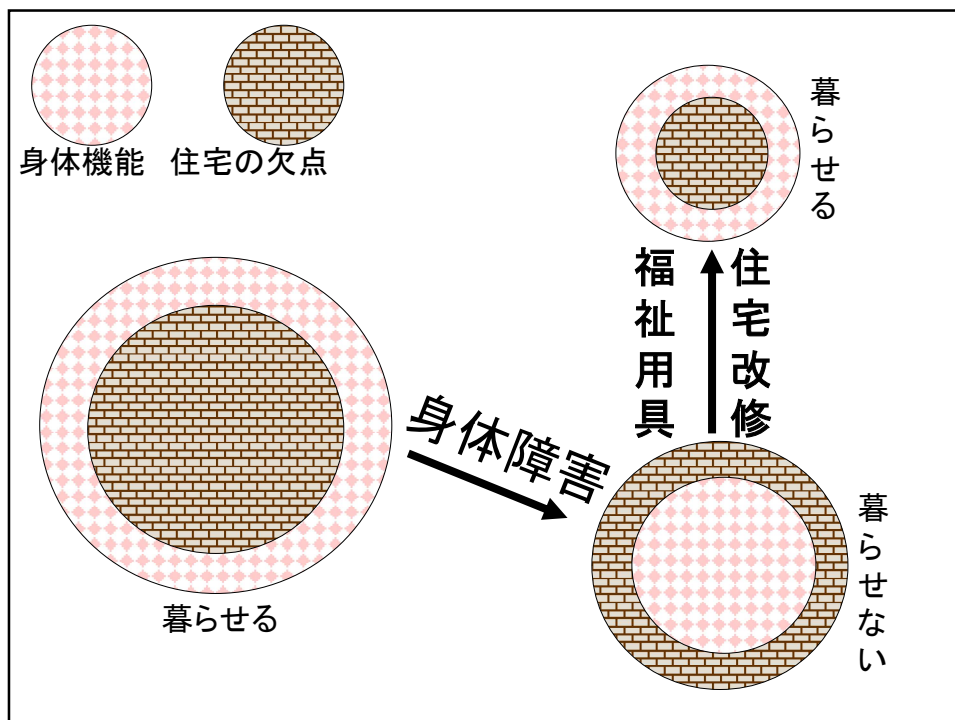
氏名：金沢 善智(かなざわ よしのり)

出身：東京理科大学大学院工学研究科
建築学専攻(建築人間工学)

元職：弘前大学医学部保健学科助教授
目白大学保健医療学部教授

経歴：1万件以上の住宅改修に関わる。
パラマウントベッド、アロン化成、
ダスキン、ウッドワン、三桜工業など
の製品開発・流通に関わる顧問
全国福祉用具専門相談員協会 理事など
医学博士、工学修士、理学療法士

人はなぜ
体に障害が残ると
昨日まで暮らしていた
家で暮らせなくな
るのでしょうか？



最重要キーワード
餅は餅屋に任せる

専門分野以外で
知らないと言うことは
恥ではない！

臨床2年目の春
脳出血 右片麻痺
30代女性
との出会い

半年間におよぶ
リハビリテーション
右上肢：廃用手
右下肢：Brs III
歩行：短下肢装
4脚杖or手すり

院内ADL状況（退院時）
排泄：洋式＋手すりにて自立
入浴：一人用浴槽・見守り
食事：スプーンにて可
更衣：ベッド、車いすにて自立
整容：車いすで自立
移乗：自立
移動：10m歩行可、車いす主力

笑顔の退院から3ヶ月 彼女は寝たきりとなっていた

理由1

病院との
建築的
ギャップ



理由2

セラピスト側の思い込み！
「病院でできたことは、
家でもできている！」

病院と自宅との 建築的ギャップを埋める 住宅改修の必要性を痛感

1985年当時

制度：老人福祉法、身体障害
者福祉法による「日常
生活用具給付」←形骸
施工者見つからず

上京→建築学科へ

東京は市区町村による住宅改修の「単独事業」が普通に行われていた。

それら事業の中で、施工者がノウハウを積み上げていた。



住宅改修は
現場で学ぶもの！